

『ブライズ先生、ありがとう』（上田邦義著、三五館）感想

多くの方から「愛読者カード」ほか、メールや手紙等で読後の感想をいただきました。ブライズ先生のかつての教え子の方からのものや、今後のブライズ研究に関わるものなどが多数あり、主なものを「研究資料」としてここに収めさせていただきます。お断りしてない方もありますが、お許しくださいますようお願いいたします。 （上田邦義）

- ・ 65年目の終戦記念日が、この夏にめぐってまいります。65年という歳月は、「戦争」の記憶をすっかり薄くさせるものです。そんな中、終戦直後から日本を精神と文化で支えたある外国人教師を知ることで、別の角度から戦後65年間の日本と、戦争とは何だったのかを考える時期にさしかかっているのではと思ひ至り、本書を世に問いました。戦後の日本にレジナルド・ホレス・ブライズというイギリス人教師がいました。「人を殺すことはできない」という理由から兵役を断固拒否した非戦思想家であり、今上天皇が皇太子であった時代に、約20年間にわたり「英語」と「生き方」を教えた家庭教師でもありました。さらに日本文化を心から愛し、俳句の魅力を世界に広め、世界中にhaikuブームをつくった俳句研究家という一面ももっていました。著者の上田邦義さんは、大学生のころブライズ先生と出会い、・・・ （三五館編集部 江口奈緒「解説文」より）

・ 読み始めて吸い込まれるように読みました。ブライズ先生の講義を私まで拝聴したような。先生の笑顔や声、自転車でお帰りになる後ろ姿が記憶の中に生き生きと。感動しました。読み終えて熱いものがこみ上げてきました。ブライズ先生が美しいものに出会ったときに抱くと同じように。中に出てくる人たちも私のそばにいる人たちでした。ソロー、芭蕉、鈴木大拙、白隠など。また、「大自然や宇宙のリズムを相手に、それらと呼应して生きるのが本当の人生」「大自然との一体感」など私の絵画制作の根幹の考え方です。偉大な師の言葉も、受け入れる土壌と育てる心がなければ、ただ通り過ぎていってしまうもの。上田先生の人生に対する熱い思いとお心に敬服しました。この本が多くの方々に読まれることを期待して。 / 英語能というユニークで、誰も考えたことがなく、不可能と思われたことに挑戦できた背景にブライズ先生に頂いた「言葉」があったこと。言葉の力は、いかに人生の中で大きな役割を担うことか。この本の中の数々の言葉が魂に響き、とても心が豊かになるのを感じます。開けるページのどこを読んでも何かにあえるような気がしています。「生き方」「考え方」という言葉が沢山出てきますが、決して硬く、重くないのは、リズムカルにちりばめられているからでしょうか。いつも身近に置いておきたい本になりました。 （青木洋子、美術家、静岡県）

・ 『ブライズ先生、ありがとう』をお送り頂き誠に有難う御座いました。確かに受け取りました。何とか時間を作って拝読させていただきます。 （秋葉忠利、広島市長）

・ ブライズ先生は私の指導教授だったのですが、「R.H. ブライズ関連年譜」を読んで、私の知らないことが多いのにびっくりしました。ゆっくり読みたいと思います。 （秋山正幸、前日

本大学国際関係学部長)

・テレビ等で、天皇陛下のお言葉や考え方、お人柄に感銘を受けることがよくございます。その根本にブライズ先生がいらしたのを初めて知りました。上田先生ご自身の深い愛情・思いも感じられました。(芦田ルリ、東京大学医学部国際交流室非常勤講師)

・この間から「奥の細道」の原文と共にドナルド・キーン氏英訳の「The Narrow Road to Oku」を読んでいたところにご本が届きました。そのせいで、ブライズの詩論、俳句観、芭蕉論がまず天啓のように目次から目に飛び込んで来ました。「日本人が覚えておかなければならない、決して忘れてはならない人物」。むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく(井上ひさし)一の通り、達意の文で書かれた「ブライズ先生、ありがとう」を、私たちは「上田先生、ありがとう」と言って受け取りたい。(麻生哲郎、詩人・画家)

・日本国のために命をかけたお方。誠に心より敬服致します。又ありがとうというこの言葉が只今世上に流行語のやうにヒットしている様です。又あとの方にてでくる詩人エリオット。私の親戚の一員が、奈良の吉野に住んで、西行上人を熱愛し、京都大学のエリオット研究者の方と共同研究をしてましたが、その研究者がなくなられ、一人でこのたび『西行 求道の境涯』を出版したところでした。(足立禮子、観世流能楽師)

・読み終わりました感想は、「献身」でした。「献身」が偉大な「愛」を生むのだと感じました。戦後の大変な時期に、これほどまで日本と日本人を愛してくださり、その時の日本と日本人は幸せだったと思います。素晴らしい御人の想いや志、その行動は時代を超えて伝わり続けるものだと感じました。ブライズ先生が天皇陛下や上田先生に伝えられた想いは、計り知れないほど大きく尊いものでした。人の想いは眼には見えませんが、心の眼にははっきり見えるものです。ブライズ先生と上田先生のやり取りはとても心地よく一つの舞台を見るようで、本の端々でその場面が想像でき、とても楽しく拝読させていただきました。私のお気に入りには p.168 の『ジュリアス・シーザー』のやり取りです。これが「愛」なんだと想います。このような体験をされた上田先生が羨ましく、このような素晴らしい「愛」を伝えることのできるブライズ先生が羨ましく思いました。「お互い傾聴と共感と尊敬と尊重を備えた自己的であるが利他的でもある愛」、これが本当の「愛」だと勝手に考えました。私もいつかブライズ先生と上田先生のような関係を生徒ともてる日がくるといいな～と思いました。本が何よりも好きな私にとって素晴らしい出会いを頂きました。早速私の、「年末年始に読み返す大好きな本リスト」に入っていました。(阿部 靖、日本リハビリテーション専門学校教員)

・わたしどもはこの方の影響をあまりうけませんでしたが、このご著書でいろいろと学びました。また、上田さんが温海のご出身であることを知りました。実はその地に小岩の国民学校にいた実弟が学童疎開で連れていかれ、それがひとつの縁で、わたしも鶴岡に疎開したのでした。上田さんの世界は全体が(いい意味で)詩の世界ですね。どのページにも暖かさを感じます。よいご本を残してくださり、ありがとうございます。(新井 明、聖学院大学大学院教授)

・実に読みやすく、わかりやすくお書きになれたのは、大兄がブライズ先生を敬愛しておられ

るからです。私の見たこともなかった写真、特に大兄が撮影なさった写真や、墓前での二枚は貴重です。ブライズ先生と同僚だった頃は先生の研究よりはシェイクスピア上演に熱中していたので、先生は大兄に資料を託されたのでしょうか。それをもっと活用してもう一冊期待します。

(荒井良雄、駒沢大学名誉教授、元学習院大学教授)

・ブライズ先生への思いあふれる内容に心を熱くしながら読ませていただきました。いま、少しずつ再読させていただいているところです。 / ブライズ先生による *Haiku* の第1巻に “haiku is a form of Zen,” “Zen belongs to haiku,” “Zen and poetry to be practically synonyms” とあり。禅と俳句・川柳の研究に力を注いだブライズ先生の言葉「日本人がもっと俳句や川柳を愛していたならば、あんな馬鹿な戦争はおこさなかっただろうに」には、非常な重みと思いやりを感じます。芭蕉の抱いた世界観・宇宙観とブライズ先生の意識は深いところで共鳴があったと。ブライズ先生の俳句英訳には、単なる言葉の翻訳ではなく、限られた語数の中で、句のもつ精神世界の伝播・伝達を心がけてなされた、妙な例え方ですが、居合いでの一刀両断のような厳しさ・鋭さを感じました。今年の夏もまた生徒たち（主に3年）に働きかけて、英語俳句の創作に取り組む予定です。受験勉強に追われる高校3年生に、ひととき、自分自身を含む自然や宇宙の素晴らしさに思いをはせる時間を作ってもらいたいと考えています。

(伊藤茂文、愛知県立津島高校)

・ブライズ先生の印象を一言で申し上げれば、「菊と刀」をはじめとする日本人論・日本論の一角に位置づけられる方ではないかと思いました。船曳建夫さんの「日本人論再考」の関連年表に、少なくともブライズ先生の名を入れるべきではないかと。私の解釈が正しいとすれば、船曳建夫さんはブライズ先生を知っていたのだろうか疑問に思いました。また、英詩音読の話も大変勉強になりました。英語ってこんな風に読むのか、大変新鮮でした。実際の音を聞きたいものですし、聞けば、百読一聞になると思います。**(岩本 隆、民間航空機KK常務取締役)**

・R.H. ブライズは世界のジャポノロジスト（日本研究者）から、俳句・川柳を中心とする日本文化の海外紹介者の中心人物の一人と目されている。そのブライズについて、上田教授の魅力的な新著が出た。ブライズは禅の特異な解説者としても知られ、彼がいなかったらアメリカのビート詩人たちはあれほど有名にはなれなかった。それだけでも十分卓越していたが、彼がそのほか多面的な活動をしていたことが、本書によって明らかになった。欧米では余り知られていない事実、彼が昭和天皇の「人間宣言」の起草者であったこと、現天皇の皇太子時代の家庭教師を二十年間勤めたこと、彼自身は第一次大戦中「良心的徴兵忌避者」として英国の刑務所で労役に服した徹底した平和主義者であったこと、第二次大戦中も帰国せず神戸の収容所に抑留されていたこと。さらにまた、優れた音楽家、一流のユーモリストで、日本人にとっては英語英文学の熱心な教授であったこと、等等。これは、巨人ブライズの評伝として極めて貴重な一書である。 **(ラース・ヴァーゴ、駐韓国スウェーデン大使、日本研究家)**

・先生の御本、驚いたやら、嬉しいやら、第2章は、学生だったころの上田先生にお会いしたような、なんだか学生だったころの先生をあたかも知っているような。学生時代の先生をキャ

ンパスで遠くから眺めていたような幸せな気持ちというか、ブライズ先生を追っかける若き日の先生を追っかける自分が見えたような。不思議な、そして素敵な気持ちになりました。この本は、私にとって、宝物です。 (ウォータース雅代、弘前大学非常勤講師)

・ブライズ先生についてのすべてを、微に入り細にわたった筆致で、手際よくまとめられました。はじめて知るブライズ先生のさまざまな面もあります。私の場合、一年間の講義で、やはり詩についてのものでした。先生も遠い天国でこの出版を喜んでおられることでしょう。『俳句』の共訳、できる限り、つづけたいと思っております。 (氏家文昭、元日本大学教授、俳人)

・ブライズ先生のお言葉に、自分はどうかであろうかと幾度となく思いました。美しいもの、はかないものに涙することに私もそうでありたいと共感し、竹を割ったように生きるものなどの言葉に心動かされました。中でも”長いあとがき”に書かれてあった、思いと言葉と行動の合致を尊重した先生の精神に。さて、今の自分は・・・?と考えずにはいられませんでした。

(内山芳美、静岡県)

・いささか興奮状態でドンドン読み進めております。気になる項目から取り上げて、しかし、どのタイトルも目を引くものばかりで、結局続けて拝読するように。時に先生の文章は私にとって難解です。私の想像力が足りなかったり、時代背景の知識が薄かったり。両親に本の感想を聞かれて「ブライズ先生は…すごいよ」と。私の知っている日本語ですと、崇高、それもピン来ませんが、凜として、でもあたたかく、とても見識のある方で。言葉になりません。とにかく優れた素晴らしい人物であったという事はよく分かります。「ハムレットは、おろかな若者だ」「竹を割ったように生きる」。伝え切れていないのですが、この感動をなるべく早くご報告したくメールした次第です。 (梅内はるか、東京都)

・先年、『毎日新聞』での「人間宣言」の記事を切り抜いていましたし、先生の講義やら宮古島での思い出とともに、格別の感慨で読ませていただきました。 (江口了太、福岡県)

・感動の一語です。幾度も嗚咽しました。日本人として、いや世界人としての平和への道をしっかりと教えて頂きました。 / 何度も通読させて頂き、感動しております。ブライズ先生の著書は、気になっていて何冊かは所持しておりましたし、妻が実践女子大で直接授業で習ったので、少しは親しみを感じていた程度でした。しかし、この度の情熱溢れる上田先生の御著によって、一挙に理解が深まりました。自然を愛し、自然に学び、世界平和を目指すブライズ先生。日本を愛し、日本の芸術(殊に俳句)を愛し、禅を実行したブライズ先生。その人生観・宗教観を詳しく紹介される中で、上田先生の人生観・宗教観をしっかり教授して下さり、私の中で眠っていた意識をかなり奮い起して頂きました。『ブライズ先生、ありがとう』は、私の数少ない座右の書の一冊となりました。本書に出合えましたこと、ただただ感謝あるのみです。

(遠藤 光、実践女子短期大学教授、『アレーティア』編集主幹)

・いままで知ることなかったブライズ先生について、また日本の古き良き伝統を改めて知ることができました。平和や戦争についても、深く考えたことがありませんでしたが、今の生活が当たり前のことではなく、何不自由なく生きていけることに、日々感謝をしたいと思います。

(大嶋宏美、静岡県)

・私は学部で教わっただけでしたが、大学院でも指導を受けられたのですね。ブライズ先生はよきお弟子さんをもたれたというのが私の最大の思いです。書かれるべくして書かれた一書と存じます。 **(岡本靖正、東京学芸大学元学長)**

・著者のブライズ先生を敬愛する心、ブライズ先生の間人愛、平和そしてユーモアを愛する心がよく解りました。この著者にして書くことの出来た、先生への Homage であり、力作です。

(門井昭夫、健康科学大学名誉教授、『ロンドンの公園と庭園』著者)

・先ほど「人間宣言」の所を拝読させて頂きました。素晴らしい先生だったのですね。私のお弟子の中に茶人で東慶寺にお墓のある方がいらっしゃいます。東慶寺にご本をお持ちできますが、いろいろな方に読んで頂きたい本です！ **(加藤真悟、観世流能楽師)**

・昭和24-27頃、先生の東大での講義にわたしは出ませんでした。学生内では大評判でした。ゆっくり拝読させていただきます。 **(金森誠也、作家)**

・「ブライズ先生」と聞きますと、夏の軽井沢研修での上田先生と杉本先輩の禅論争をなつかしく思い出します。この本の参考文献にも紀要論文と修士論文が引用されています。昨夜読み終えましたが、上田先生はまたまた変化、成長され探求を続けてみえるというのが第一印象です。それが禅なのでしょうか？ ブライズの言葉を引用するなら、**Zen is not something that changes and grows; it is the changing and growing itself.** 日本大学大学院のホームページ「ディスカッションルーム」に発刊の記事を掲載しました。ブライズ禅の21世紀的展開、そう思いました。今回、ブライズ、ホップズ同様 ず が正しかったと。「人間宣言」の英文と日本語が異なるという箇所、国際政治についての翻訳は毎日毎日今日も奇妙な異訳で、いつものことと私は思います。イエスのような詩魂、もっと広い視野で、人類の未来にとって必要、そこは切実にそう思うのですが、この本は、ZENのダイヤモンドでいっぱいです。 **(川田基生、名古屋大学講師)**

・「強制してはいけない」同感です。しかし現実には言葉を表に出さない「強制」があふれていて、悲しくなります。「科学は人間(性)の敵だ」意外でしたが、合理主義だけでは世の中がうまくいかないこともある。日本は、中国文化・西洋文化をうまく取り入れて発展してきました。それに加えて、日本独自の伝統や文化を大切にしていくなさだと。ただし、他国の良いところはどんどん取り入れて。 **(川又紀夫、茨城県)**

・最初手にした時から、どこを開いても読み出したら止められなくなる文章ばかりで、嬉しくなりました。逆に言うと、こういう本やブライズのような人がこの世からだんだん消えていくのではないかという気がして不安です。大学のカリキュラムから詩が消えていき、英語教育も文学から離れてしまって、これからどうなるのかと。「ブライズ先生の英詩講義」は特に印象深い文章で、なんべん読んで感動します。自転車に乗って大学に来られていたあの頃の先生の姿や、教室での先生の声などが甦ってきて、自分もあの頃にもどったような気分になります。詩を読む人に是非読んで欲しい貴重な本で、書評などで大きく取り上げて欲しいと思います。

(川村和夫、関東学院大学名誉教授)

・私は子規の研究をしているわけですが、ブライズ先生の子規評をどなたか訳しておられないか探してみることがありました。翻訳の難しさがよく分かりました。俳句を研究することは、世界を知ること、なによりも人間を知ることと今あらたに教えて頂いたように思います。数年前より芭蕉の最後の旅路の後を調べております。「夜舟にて魂魄通る枯州原」という山口誓子の句が近所にあります。芭蕉の遺体が淀川を遡行していくことを詠んだ句です。芥川の「枯れ野抄」には弟子達の様々な思いが描かれている訳ですが、芭蕉の魂に本当に触れている人を描いていません。今私の興味は芭蕉の心に本当に触れた人は誰かと言うことです。ブライズ先生の考え方、生き方を上田先生なりに体現されていることがよく分かりました。先生はブライズ先生の魂に今会われているのだと思います。そして、私たちはその魂を教えて頂いているように思います。今改めて日本文学、文化を学ぶ大切さや文化を受容する懐の深さ、「融合文化」論を追求することの重要性を認識する次第です。何度も読み直します。(木佐貫洋、大阪電気通信

大学高校)

・ブライズ先生のお母さまは、息子を誇りに生きていらした、という一節、私の心に深く残りました。徴兵を拒否したら銃殺刑になるかもしれないのに、どうしても人を殺すことは出来ない。反社会的行為は家族にも迷惑がかかる時代、自分の思いを貫いた息子を誇れるお母さまはどんな方であられたのだろう。ブライズ先生もお母さまを思っていたとありましたが、もし息子の反社会的行為にお母さまが反対のお考えをお持ちであったら、ブライズ先生のその後はどうだったのだろう。お母さまに誇りに思っただけで、その後平和についての思想を、確信をもって教え子に説く、力になったのではないか。自分の思いを貫いたブライズ先生も、ああいう時代の中そういう息子を誇れるお母さまも本当にご立派な方だと思いました。また、上田先生が、お母さまの食に対する教えを受け継がれた、という一節も私の心に印象深く残りました。食物の精気を頂くというお母さまの教え。ご自身で農作物を育てる中で、作物が成長していく生命力を強く感じておられたからと思います。自然食派と書かれていましたが、太陽と雨と土の力で作物が成長し、その作物を食すことは、自然の力による結実を頂く本当に自然食なのだと思います。上田先生のお母さまの一節は短いものでしたが、お心が伝わってくる思いがしました。私は親の愛情ほど尊く絶対的なものはないと思ってきました。親の愛情を受けただけでなく、親の教えを受け継げることは、本当に尊く素晴らしいことだと強く思います。

(郡司恵波、静岡県)

・たいへん示唆的な内容で感動しました。素晴らしいです。先生が山形県鶴岡市のお生まれで、慶應のキャンパスが鶴岡にもありまして、一昨年は鶴岡セミナーを行いました。そんなわけで、ずいぶん鶴岡にも通いました。先生の俳句やお能の原点は鶴岡にあったのですね。すっと腑に落ちた思いです。(小菅隼人、慶應義塾大学教授)

・ヴァイニング夫人が皇太子殿下下の家庭教師であられたことは良く存じておりましたが、ブライズ先生が鈴木大拙の推薦で学習院に招聘されたことは知りませんでした。敗戦の混乱期にあ

っても、日本は良い方々に恵まれていたとつくづく思います。 (古茶兵衛、東京都)

・最新刊の御著書をサイン入りで入手出来、大きな喜びです。ご承知のように沖縄では昭和天皇に対する気持ちが複雑です。敵国人として戦争という酷い時代を経験したにも関わらず、教育者として日本に留まり、一生を終えた学者の伝記として拝読したいです。(古波蔵剛、沖縄県)

・Blyth 氏の翻訳は翻訳論の授業などでたびたび言及していますが、人となりについてはほとんど知らなかったの、ご高著を拝読して勉強させていただきます。(今野 喜和人、静岡大学教授)

・ブライズ先生存在を始めて知り、その人間性、考え方に多々共感しました。小生近頃なぐさみに句作を心がけておりますが、ブライズ先生のように、芭蕉の俳句の五七五の簡潔な表現に、まさに宇宙、自然の究極を感じさせられたからです。忘れていたシェイクスピアも思い出させていただきました。(齋藤文夫、仙台市)

・ブライズ先生の御追憶を通して自己主張の愚かさを深く感じました。御著書の最後の方で T.S. エリオットについて述べておられるのを見て、竹森修氏の在りし日を思い出して生きてくれたのならあと惜まれてなりません。なお仏教と言っても、アーリアン系民族の原始仏教と、中国人が受け入れた仏教、特に中国で成立した禅の思想、日本に伝わって親鸞・道元の思想が開かれて発展してきたのを考えると、同一の仏教と思えないほど異なったものを包含しているのがわかります。しかしブライズ先生の異文化への包容力・理解力には驚きのみです。全く該博な生きた知識には驚嘆するばかりです。(佐竹温知、『西行 求道の境涯』著者、奈良県)

・とても読みやすい文章で、力をいれることなく読める本です。何をしたかよりもブライズ先生の「生き方」に見られる、生きていく「原則」Principle がとても立派なことに感心しました。私たちはたいてい「楽しいこと」を大切にしたり、ありがたいことと思いますが、人生の価値を高めるためには何が大切かを教えられたように思います。巻末にある年譜をみると、実に痛みの多い人生で、その中で勤勉さと精神性の高さを維持し続けたことに驚きすら覚えました。そのような生き方をするひとは稀で、今も昔もそうはいないというのが実情かと。同じ時代に British English を巧みに駆使し日本国に貢献した白州次郎という人がおりましたが、ブライズ先生のほうがより枯淡で日本人的な生き方をしたような印象を受けました。現代はあまりにも自分中心の価値観が蔓延して、それが自分たちの命の価値を高めることにつながらないことに気づこうとしません。このような生き方を実際に示した人がいたという事実を、より多くの人に知ってもらいたいと思います。(清水守拙、岡山妙仙寺住職)

・ブライズ先生は凄い人だと思うあまり、力強い引力で引き付けられればなしでした。目からウロコです。チャンスがあれば人にも伝えたいと思います。(白幡 進、画家、鶴岡市)

・ご著書を手にして、一瞬、雷に打たれたような気がいたしました。先生は、私が修論に「ブライズ」を取り上げさせていただいたことを、忘れずにいて下さったのだと有難く、申し訳なく思いました。あの時教室で先生から伺った英語能やブライズ先生の話に、どんなに驚いたか。こんな世界もあったのかと新鮮なおどろきの連続でした。天皇・皇后におじぎをされているブライズ先生の写真を教室で見せていただいた時、皇后様のお召し物が、チマチョゴリでは！と思

ったことを昨日のこことのように憶えています。 / 実はあの論文を書きおえて、ブライズ先生のお墓にお参りした時、ブライズ先生のことを映画にできたらいいなあと、シナリオを書きたいと思ったのですが、、、。ご本を拝読いたしまして、またまた妄想にとりつかれております。

(杉本京子、『元気宅配便ボタン』編集者、ふじみ野市)

・このような方がおいでになったことはまったく知りませんでした。たいへん感動するとともに、その事跡の顕彰の必要を強く感じました。俳句に関する事跡はとりわけ感銘を受けました。ぜひ今後もブライズ先生の紹介に力を注いでいかれることをご期待申し上げます。(杉山恵一、自然環境復元協会理事長、静岡県)

・天皇陛下はテレビなどで日本国民の幸せを、あるいは世界の平和を心から願っているなあ。と感じる場面が多々見受けられましたが、本書を読み納得しました。禅の心を大切にされたブライズ先生のお気持ちは何となくわかります。戦後日本は、物のない時代から高度経済成長を成し遂げましたが、発展は上辺だけのもので、日本人が本来持っている尊い精神は失われてしまったのではないかと私なりに感ずるところがありました。「現代に最も欠けているのは偉大な魂の観念、目指すべき理想の人間像である。それさえあれば理想の社会はおのずから創られるのだ」。人は生まれた以上は与えられた使命がある。与えられた命を大切に、悔いのない人生を送ることの大切さを教えられた気がします。(杉山利勝、熱海市)

・私が読むより先に、アシスタントの学生が私の机の上にあの本を見つけて読み終え、「とても感動した」と。私も一晩で読み終わりました。ブライズ先生は本当に立派な人格者でいらしたのですね。他の学生たちも読めるように、職場の図書館にも取り寄せようと思います。(鈴木雅恵、京都産業大学教授)

・ブライズ氏という素晴らしい考え方の人がいらしたと知るだけで、とても嬉しくなりました。また、今の日本をブライズ氏がどう思うかとせつなくなりました。上田先生の情熱と語り口が感じられる素敵な本でした。(須磨佳津江、NHKラジオ深夜便担当)

・私は著者の講演会で紹介して頂くまで、ブライズ先生のことを知らなかった。ご本を読了し、イギリス人でありながら、これほどまでに日本のことを、と強く感動した。私達は学校で、社会で何を学んでいたのだろうか。たゆまない努力と勤勉さで「禅」を追求し、芭蕉の俳句の人間性への愛、自然への敬虔などを理解したブライズ先生。著者は学生時代に東西の詩や詩人について、それ以上に人間について生き方について多くのことを学んだという。持ち物を風呂敷に包み、自転車でどこまでも出かける先生は、穏やかでやさしい。が、うちに強い情熱を秘め、「良心的徴兵忌避者」として労役に服したこともあり、いつも平和を願い人々に対する愛に満ちていた。著者は、先生を深く理解し、『ブライズ先生、ありがとう』のタイトルで出版された。このご本を読ませて頂いたことを感謝します。(関口紀代子、横浜市)

・日本文化を愛し、何よりも日本人をよく理解されたブライズ先生のご生涯を、深い感動をもって読ませていただきました。この本を書かれました“上田先生、ありがとう”と申し上げ、心から敬意を表しております。(瀬在幸保、日本大学元総長、国際融合文化学会名誉会長)

・ Ueda-san has given us a deeper glimpse into the life and work of the great scholar, R.H. Blyth. Blyth's life is a remarkable example of a man devoted to inner truth and poetic vision. Blyth also contributed greatly to the internationalization of Haiku. This book will hopefully encourage further interest in the Japanese poetic tradition. Haiku has the power to cultivate awareness in our daily life. As for myself, I enjoy reading and composing Haiku using my native language of English. **(Darcie Sepko, English teacher, Shizuoka)** (上田氏は、偉大な学者 R.H. ブライズの人と業績についてこれまで以上に深い理解を与えてくれました。彼の生涯は自分の信念と詩的ヴィジョンに誠実に生きた素晴らしい例です。俳句の国際化にも偉大な貢献をしました。この本は日本の詩的伝統への関心を高めるでしょう。俳句は我々に日々の生活への意識を目覚めさせる力を持っています。私も自分の母国語である英語で俳句を読んだり書いたりしています。**(ダースイー・セプコ、英語教師、静岡市)** ・ぐんぐんと、若しくはぐいぐいと引き込まれて行きました。アーそういうことかと気付かされるような奇妙な印象もしばしば。昨年十一月頃か、EU初代大統領ベルギーのファンロンパイはその喜びをハイクで表現した。これは間違いなくブライズ先生の『俳句』に触発されてのものに違いない。俳句人口の裾野が広いということは確かに先人の努力の賜ですが、一対一での朗読の場面、こういう経験を大事にできる俳句指導者が日本に何人居るだろうと思ったりもしました。 **(園田 俊、俳人、福岡県)**

・ 全編、感動をもって拝読させていただきました。「詩とは知識ではなく体験である」。また上田先生が、ブライズ先生の没後、本格的に能の研究に取り組まれたこと。1982年の矢来能楽堂における5幕形式の『英語能ハムレット』は、私にとっても忘れられない公演でした。私は長年川柳の創作・研究・評論活動も行って参りましたので、第3章の「川柳と日本人のユーモア観は、大変面白く興味深い一章でした。ブライズ先生は俳句と共に川柳を海外に普及させた最も重要な人物です。「川柳は絶望から生まれる」詩であるという川柳観は、川柳の本質を見事に表現していると思います。「絶望的なときこそ人生には意味がある」は強く心に残りました。 **(平 辰彦、文学博士、東京都)**

・ 戦後の日本をリードしたのは、米国文化ではなくて、実際にはブライズ先生（英国文化）であったという部分に非常に興味を持ちました。近頃特に第二次世界大戦前後の歴史的な観点「特に米国からの影響」に深い興味を持って関係の本などを読み漁っておりますが、戦後に「米国だけからの影響」だと思っていたことにブライズ先生（英国人）が深い関係を持っていたことに非常に興味を持った次第です。全く知らなかった世界で、深い印象を持ちました。隠遁生活を始め、近頃「無力感」を感じていた私よりも2年先輩で、尚学者として現役であられる著者に、深い敬意を抱きました。 **(高橋清彦、マレーシア・クアラルンプール)**

・ 戦後の日本に素晴らしい英国人の活躍があった。英語教育への尽力、世界に対する俳句・禅などの紹介、皇太子へのご進講。そして平和志向の人間教育など、「戦争絶対反対者」として筋金入りの生き方を教えて来られた事。永年ブライズ先生に学んだ著者が、先生の「日本文化と

日本国民への愛と平和への願いを、無駄にしてはならない」と必死に呼びかけている。まさにこの時代にこそ読まれるべき本であると感じました。 (高橋正敏、東京都)

・御著書たった今、完読。深く感動し、crybaby 状態で、気の利いたことが書けそうもありません。Human life has a meaning only if the struggle is hopeless. というブライズ先生の言葉に思わず涙してしまい、子供に笑われてしまいました。お願いがあります。上田先生はブライズ先生の御弟子ですから、上田先生の弟子である私はブライズ先生の孫弟子となります。私は上田邦義先生の弟子であることを誇りにしており、それを、至るところで自慢して先生にご迷惑をかけておりますが、今後、「ブライズ先生の孫弟子」と称することへのご許可も頂きたくお願い申し上げます。この世に「生きる」には工夫というものが必要、とブライズ先生も仰っておられるようですので... (竹内正人、立教大学文学部兼任講師)

・心暖まる思いを感じながら読ませていただきました。ブライズ先生は、戦前、戦中、戦後を通じて、日本文化、殊に、俳句、和歌、そして川柳や日本人のユーモア感覚にいたるまで、その研究領域を広げて、一種独特な英語で世界に紹介されたユニークな方でした。京城大学予科の英語教師以来、とりわけ戦後東京において、禅とティーチングに全力を傾注されておられた様子は、今回、直接訾咳に接しておられた上田先生のご著書を読んでいて、強く感じたことでした。ひたむきで、紳士で、かつ大らかなブライズ先生の生活態度からは「徳孤ならず、必ず隣有り」を思い起こしました。思えば、西田幾多郎、鈴木大拙と続いた学習院の縁が生んだ天皇家との関係であったと思われます。と同時に、黒子に徹せられたブライズ先生の生きざまには、強い感銘を受けました。 (多田 稔、帯广大谷短期大学前学長)

・「ブライズ先生、ありがとう」というタイトルの本にとっても驚きました。本のタイトルから、上田先生のブライズ先生を慕うお気持ちが伝わってきました。大変な本、一つひとつ言葉をかみしめながら、読んでいくところです。英詩講義のところで、私が今後なすべき課題がさらに明らかになったと思います。それは、「手話の文字化」です。文字を持たぬ音声言語は記録に残すことが困難であり、詩を作ってもすべてを後世に遺すのは困難を極めます。先覚者が音声言語から文字を創作し、機能性を持たせ、文字化することに成功したときは、音声言語とは別の体系として書記言語による文学活動が発展しました。手話はいまだに文字を持たぬ言語です。先覚者が苦労して作り上げた文字を基盤に書記言語が発展していったことを考えると、手話も不可能ではないはずです。今は不可能でも、手話の文字化という大変な作業に着手したいと思っています。手話の文字化作業について、学校の先生方に声をかけたところです。20年後には手話の文字化作業に一区切りをつけたいと思っています。すばらしい本をありがとうございました。 (棚田 茂、大宮ろう学園 高等部専攻科 情報科・数学科教諭)

・ブライズといえば、ずっと気になっていた人物でした。『禅と英文学』も『俳句』も重要な本という意識は持っていたのですが、これまできっかけもないままに、愚生の読書の領域に入ってきたことはありませんでした。貴著を通読して、それが大きな空隙であったことを意識させられています。目下開かれているアルゼンチン作家ホルヘ・ルイス・ボルヘスの写真展を観て

はっと気づいたのは、ボルヘス文学の根底に「禅」と「英文学」があり、その人の晩年の「**HAIKU**」実作の起動力となっているのはブライズだという事実でした。展示ではブライズ先生への言及はなにもなされていませんが、最後の写真が、夫人のマリア・コダマと二人で覗きこんでいる『禅と英文学』を写し撮っていたのです。ブライズさんのその本を知らなければ見過ごしてしまいそうな、驚きの発見でした。貴兄の情熱的な、日本人にとってさまざまな警告や、覚醒への呼びかけを含むこのブライズ讃を、ほんとうにこの時期に読めてよかったと感謝しています。それにしても、ブライズ先生と貴兄が、教室における師弟であったとは、いままで知らずに過ごしていたことが迂闊でした。ブライズ先生の現役時代の写真や、師の墓前に立つ、あるいは座す、貴兄の若かりし頃の写真も、とてもいいものですね。本書は書かれるべくして書かれた、そして機が熟して一気に成った、人物評伝の幸福な一級品と考えます。ほんとうに嬉しい本でした。**(土岐恒二、都立大学名誉教授、翻訳家)**

・やさしい語り口、先生にたいする溢れんばかりの尊敬と愛情が伝わってまいり、一気に拝読いたしました。英国人であり乍ら、これ程までに日本を愛してくださり、日本人よりも日本人の精神を身に具えられた稀有なブライズ先生の姿が生々と生づいていました。この素晴らしい方の精神が現天皇・皇后陛下に脈々と継承されている事は、大いなる驚きであり、又喜びでもあります。人の恵み、自然の恵みを改めて考える契機を下さったこの労作に御礼申し上げます。

(富田雅子、観世流能楽師)

・はじめ、詩を読むような感じでしたが、しだいに、大学院の上田ゼミの教室にいるような感覚になってきました。何度も読みかえたいと思います。修了しても、いまだにこのような贅沢なゼミを受けることができ、心から感謝いたしております。**(戸村知子、吹田市)**

・ブライズさんのことはほとんど知りませんので有益な本です。京城帝大にすぐれた人がいたようですが、ブライズさんもそこで大きくなったひとりでしょう。ぼくがブライズさんのクラスで聞いた話では川柳についてのものがもっとも心に残りました **(外山滋比古、御茶ノ水女子大学名誉教授)**

・一気に読了しました。貴君がこれほどB氏に私淑していたとは。B氏についてこれだけ書ける人は他にいないと思います。大学院で一年弱聴講しただけの私。今度のこの本を読んで実に多くのことを教わった。自然と生き物を愛すること。徹頭徹尾非暴力・非戦主義を尊んだB氏の現実の日々はさぞかし苦しいものがあっただろう。若くして逝ったのもそのことに由来するのかもしれない。B氏の本質を知らせた本書は大ベストセラーになってほしい。この一冊こそ宗片君の真価を發揮したものだ。日本の貴重な文献として残ると信ずる。彼はハズリットを愛していましたね。私の博論を見せたかった人です。**(中川 誠、東京成徳大学名誉教授)**

・天皇陛下の英語教師といえば、ジミーというニックネームをつけた逸話で知られるバイニング夫人(米国人)が有名だが、ブライズ先生が本当の先生であった。その日本理解は表面的なものではなく、その精神性や伝統や現代の日本人には失われつつある日本人としてのアイデンティティの深層部まで及んでいる。わが身を振り返り自省の念にかられた。その弟子である筆

者の上田先生は、シェイクスピア劇を能舞台に移して演じるという、日本伝統文化の革新者で守護者でもある。異国の文化を知り心から愛し、自らもその中に身を投じることで相互理解を深める。その地道な活動の継続が平和な世界をつくる一歩と感じた。戦争の無い平和な世界を願う普通の日本人の私にとって、まず自らの文化を愛し実践し、そして交流により異国の文化を経験的に学ぶことから生まれる感覚こそが平和をもたらすものだとなつた。大変示唆深い一冊であった。 (中塚弓美、人材コンサルタント)

・これまでも先生からいろいろの知識を頂いておりましたが、この本は、今このような社会で一番読まれて考えさせられることだと思います。まわりの人たちにも、ぜひ読むよう勧めたいと思います。 (西貝和子、ニシガイ、静岡市)

・御高著を拝読中、私の心のなかにずっと響いていたのは「出会い」という三音の言葉でした。思えば、四十数年前、国文学を専攻する私は、深い考えもなくふらりと先生の「英文学概論」の講座に名を連ねました。そこでシェークスピアと出会い、キーツにワーズワスに、さらには八木重吉に出会いました。先生は覚えていらっしゃるでしょうか。その後一ヶ月ほど休講が続き、体調でも崩されたのかと心配していたところ、ある日教室に戻られた先生は、実は京都を旅していた折、路地の一角から漏れ聞こえてくる尺八の音色のあまりの美しさにそのまま通りすぎるのが出来ず、弟子入りしてきました、とにこやかに話されました。講義をほったらかしてなんたる身勝手、とはつゆ感じさせない、その穏やかなおおらかさに、私は「生きる」とはこういうことなんだと、胸が清澄な空気に満たされたことを、今でも記憶しています。先生は、ブライズ先生の教えを実践されていたのですね。(あれは研究室や教室の一部が封鎖された学園紛争中のことでした。上田)。この事件は、私にとって一つの確かな出会いでした。それにしても氏の絶対平和主義の信念と、それを生き抜く命の力の源は、いったいどこにあったのでしょうか。おそらくは自然への畏敬の念とその一部たる自らの存在への謙虚な矜持ではなかったか。「人間の威厳や品性」もまたそこからしか生まれ得ないからです。「造化の天工」に無条件の賛辞を送り、「松の事は松に」習い聞くしかないことを見抜いていた芭蕉への傾倒、禅への収斂は、氏にとって必然のプロセスかと私には思われます。氏の生涯が幾多の出会いによって織りなされたように、人はみなそれぞれの出会いによって導かれ生かされる。私の教師生活も残りわずかとなりましたが、初心に立ち返り、「何を教えるか」について明確な答を示してくれた氏や多くの人々の教えを胸に、もうひと頑張りしてみようと、心を新たにしております。(法月孝夫、藤枝市)

・拾い読みするだけで感動が伝わってきます。「幸せとは、好きなことをすることである。」まったく同感です。すべてを読みたくなる本です。家内にも友人にも薦めたいと思います。「上田先生、ありがとう」 (長谷川啓之、アジア近代化研究所長)

・私は、旧制高校1年生の時“英会話”という授業でブライズ先生の聲咳に接しました。昭和23年のこと。実際には英会話というよりも、ときには黒板に漢文をお書きになったり、ときには俳句であったりで、先生のお考えやら当時の印象・感想などを英語で話してくださいまし

た。「人間宣言」の英文草案の策定に関わったことなどおくびにも出さず、日本国のためにGHQに対して働きかけをされた人であることを私どもは知りませんでした。敗戦後の暗い世の中で、先生の品格からにじみでる人間性が伝わり、未来に向けての光明を示してくれる授業でした。この本は、ブライズ先生に接した宗片先生の暖かい眼を通して、ブライズ先生が為れた偉大なお仕事やお人柄が読了後にもじわじわと伝わってくる本です。皇室ならびに多くの日本人々にごく自然に格調ある生き方をお示しくございましたが、そのなかには、人と人との出会い、目には見えない絆の大切さが浮かび上がってきます。教育の本来の姿はこのようなものであると実感します。説教ではなく、理屈ではなく、ブライズ先生流の教え方こそが、若い人々に対して大切な教育です。教育者のみならず人生経験を積んだ多くの人々が、これから育ちつつある若人に接する姿がこの本にあります。私どもは、英語は、ブライス先生（私たちは、澄んだ「ス」と呼んでいました）、ドイツ語はシンチンガー先生、クラス担任は矢内原伊作先生という、恵まれた先生方でした。ブライス先生の授業は決して不人気ではありませんでした。『回想のブライス』に同じクラスの丸山昭の文が掲載されています。1年間で旧制高校はなくなり、ブライス先生とはその短い期間だけの接し方でした。残念なことに、ブライス先生の偉大さが分からずじまいでした。本著でそれがわかりかけています。(日江井栄二郎、明星大学元学長)

・ブライズ先生という方の存在を全く知らず、初めてその教えや考えに触れる機会となりました。50年近くも前に、こんなにも先進的な考えを持った方がおられ、その方が日本や日本文化を深く愛していたことに強い感銘を受けました。違いを理解したうえで見えてくる「普遍」がある。何かひとつの考えに固執し傾倒するのではなく、様々なものを受け入れたうえで取捨選択し、自分が正しいと思うものを形作っていくこと。ブライズ先生のこういった姿勢は、グローバル化の加速する現代を生きるわたしたちにとって非常に重要なメッセージなのではないか、と考えさせられました。(菱岡みどり、東京都)

・4月18日「陽泉会」での先生の「独吟独舞：英語能ハムレット」に感動致しました。そしてその後、この新著を拝読させていただき、先生とブライズ先生との出会いや九年間にわたる親密な師弟関係と深い思想や信念に至るまで、そして日本の平和に大きな力を尽くされたこと、大変感銘を受けました。現在そしてこれからの世界に引き継いでいくべきご意志だと強く感じました。大拙師とブライズ氏を大変尊敬しておられる岡山のご住職や、闘病中ながら俳句を毎日作って楽しんでいる叔母などには是非ご紹介したいと思います。(平井明余、西東京市)

・あの混乱した時代に、「人間宣言」はブライズ先生が草案されたものだったのですね。日本の民主化に貢献されたことがよくわかり、あの当時毎日毎日が子供ながら大変だったことを思い出しました。(平塚文子、千葉市)

・師と学生というものについて改めて考えております。人の命は限られたものですが、その精神は伝えられてゆくものなのではないか。私も生き方を変えるきっかけとなった先生のことを思い出しました。7月7日七夕の夕方に、学生と地域の方のための詩の朗読の企画があり、ブライズ先生の俳句の本から紹介できないかと考えております。(星野裕子、岡山県立大学教授)

・シェイクスピアと能を結びつける原点がわかり、とても面白く読ませていただきました。ブライズさんの本を学部時代、テキストで使った授業がありましたが、その折には十分に理解できなかった内容がわかりやすく解説いただいたようで、その意味でもありがたく思いました。

(本合 陽、東京女子大学教授)

・昭和天皇の「人間宣言」草案、俳句とのかかわりなど、私個人的にも興味深い内容が多く、早速、拝読させていただいております。Y様からのご恵贈に重ねて感謝とお礼を申し上げる次第です。(松野輝洋、藤枝市前市長)

・本書は、師である英国人の人生と教えを讃えるため、永遠に師事を誓う学徒として著者が、綿密な調査検証と敬愛に満ちた筆致で著した一書である。レジナルド ホレス ブライズは日本占領下の韓国に10年、その後の残余の人生を日本に生きた。彼が、日本の詩、特に俳句、また禅を西欧へ紹介したことは世界的に良く知られている。しかしながら本書の上田氏の視点により、彼に更に深い真実の人間の表情を与えることとなる。日本内外の歴史に影響をもつブライズに直に接した経験によって書かれたこの書の貴重さは比類がないものである。早期の英語版の刊行が待たれる。(エイミー・ヴァレンコート・松岡、『英文読売』芸術担当記者、明海大学講師)

・こういう先生がおられ、上田先生もこの先生からインテリジェンスのある教育を受けられたのか、と納得いたしました。これはすばらしい日本文化論です。(松野 弘、地域社会論)

・ざっと拝読したところ、ブライズ先生へのアプローチの密度の濃さに感服いたしました。これからじっくりと読ませていただきます。/早稲田大学大学院でのブライズ先生の講義は、夏休み前までであったか、9月に入ってもまだあったのか、記憶は定かではありません。ただ、聖ロカ病院に、曾我部氏と見舞いに行き、面会謝絶で会うことができなかったことを覚えています。/ブライズ先生が、早稲田の大学院修士課程で担当されていた科目「英文学文献研究」を、私は昭和38年4月から、昭和39年9月まで受講しました。一年目の講座のテーマは、“Love in English Literature”で、二年目は、“Love in Shakespeare’s Works”でした。早稲田でブライズ先生の講義を受けた学生は、一年目が4人、二年目は2人だったと思います。私は非常に面白い授業であったと思っていますが、はじめはたくさんいた学生がだんだん辞めていったところをみますと、評判は非常に良いとはいえなかったのかも知れません。二年目(1964年)の9月に先生は入院されたので、私はブライズ先生に一年半教わったこととなります。短い期間でしたが、私はブライズ先生から大いに影響を受けたと思っています。授業の内容は刺激的で面白く、先生独特のアイディアにあふれていました。授業では、私は39年に2回発表しています。1回目は、*Romeo and Juliet*, 2回目は、*Antony and Cleopatra* についてでした。発表して、ディスカッションをしたことを覚えています。その講義の中から、私が特に印象に残った言葉を拾ってみたいと思います。「ワーズワースの詩行、Let Nature be your teacher. を、Let Woman be your (unconscious) teacher. と書き換えよ。Clever men learn and learn only from women. だからである。A man loves a woman. By being with

her, he becomes better (more sensitive, cleverer) in every way. 日本人の男性は一般的に言って女性的である。これは軽蔑して言っているのではない。むしろほめているのである。理想的な人間は、hermaphrodite (両性個体) である。芭蕉もそうであった。人間の究極の生き方は、Give all to love. (Emerson) である」。また1968年ごろ、北星堂主催「ブライス先生研究会」の第三回(1月27日)の発表を私が担当しました。(三上紀史、大東文化大学名誉教授)

・三十年ほど前、静岡や磐田で、宗片先生の「英語能・ハムレット」を見せて頂きました。今度の先生のご本は、とてもわかりやすく、読みやすいです。前向きに、健康志向で生きるわたしにぴったりの本です。繰り返し読みます。(水野はな、焼津市)

・行間から伝わる上田先生の想いを感じ、大変感銘を受けました。現在までのお仕事の根底に流れる思想が、ブライス先生との9年間にわたる交流の中で培われたものであることを知り、「教育」という言葉を超えて受け継がれる想いの強さと大きさに驚かされました。先生が常日頃お話しになる平和主義のこと、そして文化の融合という思想の源を垣間見たような気がいたしました。「一番大事な授業」である「詩の授業」は、単なる英語の授業ではなく生き方の授業であること。文学を学ぶこと・教えることが、社会の現実から離れてしまい、本来実践知、common sense (共通感覚・常識) を学ぶ可能性にあふれた英文学を読むという行為が、現実には背を向ける方向に進んでいることを痛感しました。先生が能の公演の前にお話しくださる解説が、現実に関与する語りかけ(relation) であることを思い出し、「あとがき」から先生の声がはっきりと聞こえてまいりました。この本は、先生のブライス先生との交流を描く以上に、今の現実にコミットした書物であると感じました。(南 隆太、白百合女子大学教授)

・教え子としての、情熱溢れる内容で、深く感動しました。皇太子の家庭教師としての、生き方と絶対平和の教え、天皇の人間宣言にいたる水面下での大きな活躍、俳句と禅の日本文化の外国への紹介など、わかりやすくリアリティに満ちた表現によって、よく理解できた気がします。大学院の上田先生のはじめての講義で、ハムレットのセリフ「生きるか死ぬか、それが最大の問題だ」を、オフィーリアの死後、「もはや問題ではない」とした謎もよくわかりました。そこにはブライス先生の人生観が、上田先生に継承されていたのですね。また、上田先生によるブライス先生の徴兵拒否など絶対平和主義者にたいする深い理解と継承、平和に対する強い思いとブライス先生の遺志の国民への共有の呼びかけなど、深く感銘をうけました。さらに、この本を読んで皇室についてかなり身近になった気がします。そのことは私にとっては大きな経験となりました。最後に、人生において迷いというのは克服することができるのでしょうか。聖職者の境地のような、「竹を割ったように」なれるのでしょうか。私にとって文学することは、未分化の状態のように、二者択一のできない部分にその醍醐味があるように思ってきたのですが。これから友人にもこの本を勧めたいと思います。/ 基地問題についての一連の動きについては、とても残念です。上田先生には御尽力いただき、感謝を申しあげる次第です。先生の御本は、いま宮古で児童文学をやっている読書家の友利昭子さんに読んでもらっています。

先日会ったら、とても感動している、とおっしゃっていました。 (宮川耕次、沖縄県)

・素晴らしいご本、一気に読んでしまいました。上田先生が書かれているブライズ先生のような、素晴らしい師に学ばれたことを羨ましく思います。ご本の内容は、全て共感できることばかりでした。外国人なのに、日本人と日本文化をこれほど綺麗に説明された方は、他におられないでしょう。また、上田先生のお考えにも、全て賛同させていただきます。私も戦争は大嫌いで、すし、「人間は論争したり自己主張したりすべきものではない。自分の得た結果をささやくように隣人に告げるべきだ」も、素晴らしい言葉ですね。自己主張しなければ生きて行けない社会を、軽蔑します。と言うわけで、ご本を読ませて頂き、楽しい気分になりました。 (宮本 晃、日本大学大学院教授、宇宙医学)

・発刊されました翌日、五月五日、先生のご本を持って、ブライズ先生、大拙先生にお見せしに東慶寺に参りました。お二方共に大変喜んでいらっしゃいました。ブライズ先生の方はお花もなく、からからとしていましたので、家から持っていったおいしい新茶を差上げました。次回は庭のお花を持参したいものです。実はそのとき、お墓の前で、「天皇・皇后様もきつこのご本をお読みになりますよ」と小さな声で言いました。私の予感があたりますように。181ページのお写真から四十四年後のブライズ先生のお墓の写真を撮りました。戒名「不来子古道照心居士」の不来子古までしか読めませんでした。今度お参りに行きましたら、きれいに洗って差上げましょう。 / 横浜有隣堂で求めた本は友人たちに送り、三五館に注文したらその『通信』にいろいろなことが書いてあり、それをコピーして知人たちに一緒に送りました。確かに、「日本のために教科書に載せたい人物 No.1 !」です。上田先生はブライズ先生に何よりの供養をされました。お盆にはきっと先生は帰って来られる気がします。迎え火のとき馬や牛を野菜で作りますが、来ていただく時は馬で速く、帰られる時は牛でゆっくりゆっくりあの世へ帰っていただくのだそうですね。日本人のやさしさでしょう。 (棟居禮子、横浜市)

・貴兄とブライズ先生との美しき師弟愛が伝わってきます。こうした偉い先生もおられたのですね。 (村上文昭、『へボン先生、平文さん』著者)

・私が初めてブライズという名前に出会ったのは、京都の学生時代、百万遍近くの書店で、ふと『禅と英文学』という本を手にしたときで、それ以来忘れられない著者である。明治のラフカディオ・ハーンと並んで、第二次大戦以後、日本の大学で教鞭をとった、日本人が最も感謝すべき外国人教師の一人である。ずばりと決断的な言い方をされることがあるので、ときに誤解を招くおそれがある。一番大事な授業は詩の授業、その音読重視の授業は羨ましいほどである。またユーモアは俳句に不可欠。俳句こそ人間を救う道。これも氏の俳句観の特徴。「一切の医学的治療を拒否されて自然死を選ばれた」いかにも先生らしい死に方と著者は推測する。著者へのお願ひ、『禅と英文学』の邦訳を完成させて欲しい。 (村松真一、静岡大学名誉教授)

・まったく知らなかった上田さんの一面、興味深く感じ、これを書かれた意欲に感心いたしました。ヴェトナムでは、英語俳句を作られたんですね。今度のご本で知りました。マレーシアでも作られましたか。 (毛利三彌、日本演劇学会前会長)

・あなたの新著、本日確かに受け取りました。ブライズ先生が天皇の家庭教師であり、かつ「人間宣言」の起草者であるということは今迄全然知りませんでした。小生加齢とともに視力が弱くなってきて、最後まで読み通せるかどうか、いささか自信がありませんが、何とか少しずつ読み進めてみたいと思います。 **(矢板末松、酒田市、88歳、鶴岡南高校時代「英語部」顧問)**

・第一章でまず「どちらが拾うべきであろうか」のエピソードが書かれているのが良いですね。ブライズ先生のお人柄、天皇陛下に何を教育されようとしたのかが、このエピソードでわかります。つい先日、天皇皇后両陛下が伊東に来られ、私が借りている畑近くの田園地域の視察にも来られました。多くの市民が、訪問された箇所でも歓迎していたと聞きました。天皇陛下の家庭教師について書かれた本は、多くの方が興味を持たれると思います。また、伊東にも平和を願う活動をされている方が大勢おられますので、その方々にもご紹介したいと思います。早速、伊豆新聞にもお話しいたします。 **(安田 保、静岡県)**

・これはまさに時宜にかなった落雷のような書と受け取りました。誰も知らなかった現天皇の家庭教師、その方が良心的徴兵忌避者であったとは。骨の徹った平和主義者が、永年、皇太子の現天皇に接しておられた訳ですね。また芭蕉を最大の詩人と見る人。日本の精神性の骨格が見える人ですね。昭和天皇の人間宣言に関与された真実も判りました。この書はどこから読んでも面白い。著者の愛着と、ブライズ先生の真髓が、いろいろな逸話や行動から具体的に判ります。思い切って出版なされた意義を称え、お祝い申し上げます。 **(山波言太郎、詩人)**

・大阪駅前の書店で、先生の新しいご著書が平積みになっているのを見つけ、さっそく拝読させていただきました。以前にうかがった話あり、また、はじめて知ることがらありで、興味がつきず、まさに、巻おくあたわずでありました。 **(山本勝久、大阪市)**

・上田先生でしか書けない記述に深く感動しました。私の著書・文献も御紹介頂き感謝しております。先生はブライズ先生と直接交流され、身近にブライズ先生の教えを受けられた、今となっては数少ない方ですので、私はこの著物にどんなにか刺激を受けたか言葉では表現できないくらいです。更に感動しますのは、ブライズ先生の教えを体現することによってブライズスピリットが先生の血肉のバックボーンとなっていることにあらためて感動しました。先生のお言葉「自分が本当にやりたいことをやる。誰かに本当に役立つことをやる」が、この御著書が生まれる源になったのではと私は思いました。 **(吉村侑久代、岐阜保健短期大学教授)**

・同居している義母が、女学校時代にお世話になった先生のお名前を見つけ、とても懐かしがっておりました。感謝をこめて・・・ **(米野裕子、米沢市)**

・「右腕が上がらなくなるほど一生懸命パソコンに向かって書き上げた」とのこと、その情熱と平和への願いに深く敬服いたしております。パッと開いたところが73ページ、集団疎開のことが74ページへと書かれてあり、私も茨城県笠間そして縁故疎開で宮城県愛島に疎開したので、この件は身につまされるものがあります。先生の波長が素直に背景までも伴って伝わってきます。先生の懐かしい講義の時間に包まれるような気がいたします。市川市は平和宣言都市を標榜しています。友人たちにも勧めてゆきたいと思います。 **(渡辺 直、市川市)**

・『ブライズ先生、ありがとう』を、私の座右の書とさせていただきます。私にとって、人生哲学の礎にしたいと思います。竹内さんが、「私たちは、ブライス先生の孫弟子だ」と。私もそれに同意しました。私たちの師事する先生に、牛原虚彦先生がいらっしゃいました。(日大芸術学部映画学科の学生時代)牛原先生は、大正、昭和期の映画監督です。ハリウッドへ渡り、チャップリンの『サーカス』の撮影隊の助手として研鑽を積まれた方です。我々は、その先生に習っていましたから、よく「我々は、チャールズ・チャップリンの孫弟子だ」と言っていました。したがって、「私たちは、ブライス先生の孫弟子だ」という訳です。しかし、私たちはそれ以上に、上田邦義先生の弟子であります。(渡部英雄、湘南工科大学講師)

・私がブライズの名を目にしたのは昭和天皇独白録が発見された 90 年代半ばだったと思います。しかしすぐに記憶の底に埋もれてしまって、今日まで思い出すこともなかった名前でもありました。この本に出会い始めて、かつて目にした 1 ページが厚みを持って蘇ってくるような思いで読みました。そして、自らの生死を信念を持って貫いたブライズのような人がその時に存在していたことに心うたれました。同時にこの本はブライズを敬愛し、その意志を自らの生き方の指針とした筆者自身を熱く語った一冊でありました。(E.y、山形県、女性)

・戦争の時期を経験し、その後、直接英語にふれ、また、ブライズ先生と出会い、惹かれていくさまを感じ、私も学生の頃に色々と導いて下さった先生がいたことを思い出しました。ですが、自ら離れてしまった私です。今回また、更に後悔が強くなってしまいました。上田先生のような出会い・関係を羨ましく思いました。勉強だけでなく、「考え方」「生き方」を教える先生だったんですね。(きむら…、静岡県、女性)

・一行一行また行間に光る著者の思想に深く魂をゆすぶられながら、日本に生まれたことの幸せと後世に続く人たちへの責任感をつくづく重く感じました。ゆっくりと味わいながらまた読ませていただきます。(K氏、香川県、女性)

・終戦直後、英国人のブライズ氏が皇太子の家庭教師についたのは、英国通の山梨勝之進が学習院院長で、そこに鈴木大拙の推薦があったからという経緯でしょうか。また、俳句は日本語のもので、“わび・さび”がわかるのは中国人くらいと思うが、外国語に訳転した“短詩”もそれなりに意味はあるでしょう。シェークスピア能と同じようなニュアンスか。(KM氏、東京都、男性)

・ブライズ氏は厳しさと愛情を併せ持った先生で、著者もその精神と姿勢を受け継いでいらっしゃいます。学問のみならず良い生き方を指南してくれます。ブライズ先生のような方が日本にいたらとても心強いです。(p氏、山梨県、アマゾンより)

・ブライズさんについては俳句を通して夙にその名を知っていましたが、それ以上ではなく、このたびこの人の全貌を知り得る本が出たことをたいへん喜んでいきます。上田先生に感謝します。(Y氏、西宮市、男性)